

Title	あとがき
Sub Title	
Author	平野, 隆(Hirano, Takashi)
Publisher	慶應義塾大学商学会
Publication year	2024
Jtitle	三田商学研究学生論文集 No.2023 ,p.199- 199
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00113718-00002023-0199

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

あとがき

すでに多くの人が述べていることですが、大学で学ぶ目的は、単に専門知識を習得することだけではありません。それにもまして大切なのは、専門知識を使って問題を発見し、論理的に考え、自分の主張を効果的に伝える力を身に着けることです。そして、研究論文の作成こそ、これらの力の養成にとって最も効果的な方法なのです。また最近では、社会科学の分野でも複数人で1つの論文を作ることが多くなっていますが（本論集掲載の論文の多くも共著論文です）、そのような場合は論文作成が他人と意見や役割を調整しながらチームとして仕事をする能力を鍛錬する機会になっているといえます。

論文に必要なのは、①問い、②主張、③論証です。それぞれについて補足すると、①論文の問いは、自分（たち）にとって切実なもの、どうしても解明したい問題であるべきです。そのことが、論文を完成させるモチベーションになります。②論文の主張は、先行研究の単なる要約ではなく、問いに対して正面から答えた自分（たち）自身のものでなければなりません。③論証とは、自分（たち）の主張をサポートする根拠（事実や理論）を集めて主張と根拠を矛盾なく結びつけることです。その際、他人のアイデアや他人が発掘した事実を無断で使うことは「剽窃」であり、学問の世界では絶対にやってはならないことです。近年、学生諸君の中にそのことに対する意識が希薄な者が散見されることは大変残念です。

そのほか、論文には引用注のつけ方、数字や記号の表記法、参考文献リストの配列などについて多くの守るべき「きまり」があります。これらは決して無意味な慣習などではなく、論文を読む人のコストをできるだけ減らすための工夫です。詳しくは、本誌や『三田商学研究』の執筆要項を参照してください。

論文を作成することによって得られる上記の能力や経験は、卒業後どのような分野に進んでも必ず役に立ちます。これからも多くの学生諸君が本誌への投稿に挑戦することを期待します。

商学会委員長
平野 隆